

## 1 「生徒による授業評価」報告書について

- 全県立高等学校及び中等教育学校（後期課程）における12月1日から1月15日までの「生徒による授業評価」の結果、「生徒による授業評価」に関わる取組及び授業改善に向けた取組などについて集計・分析した。
- 令和3年度の「生徒による授業評価」の評価結果の回答総数は次のとおりである（第1表、第2表）。

**第1表 共通教科回答総数**

国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報
131,195	87,914	38,497	111,663	113,865	142,375	44,865	151,642	41,688	30,901

**第2表 専門教科回答総数**

農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	理数	体育	音楽	美術	英語
7,358	18,586	8,182	723	2,444	599	632	1,926	26	2,158	786	955	307

- 令和元年度から、高等学校学習指導要領の改訂等に対応するため、すべての質問項目を改訂した（第3表）。

**第3表 「生徒による授業評価」の質問項目（共通小項目）**

大項目	共通小項目（標準例）		項目の趣旨
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元（内容のまとまり）のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある	「主体的な学び」に関する項目
	2	単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある	「対話的な学び」に関する項目
	3	単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある	「深い学び」に関する項目
学習の状況について	4	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた	「項目1」と関連の深い項目
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知するなど、自らの考えを広げ深めることができた	「項目2」と関連の深い項目
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた	「項目3」と関連の深い項目
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた	より高次な学びの構築に関する項目

- 学校で取り組んでいる研究の成果指標として活用したり、生徒の実態に即した項目を設定したりするため、7項目の共通小項目に加えて、さらに学校独自の小項目を設定することができる。各学校で独自の小項目を設定する際の参考のため、学校独自の小項目の例を掲載する。

- 授業で学んだことや知識をもとに、自分の考えを他者に向けて話したり書いたりして表現することができた。
- 授業を通じて、教科に対する興味や関心を深め、学習意欲を向上させることができた。
- 使用する教材・道具類の場所や、課題・レポートの提出場所等、分かりやすく整理されている授業である。
- 教材（図表・動画・写真・実験など）が工夫されるなどして、取り組みやすい授業である。
- ICTの利活用が、学習内容の理解に役立っている。
- 授業でわからないところがあったら、先生や友人に聞いたり、自分で調べたりするなどして分かろうとする努力をしている。
- 私は授業のルール、マナー（携帯電話、ヘッドフォン、飲食、おしゃべり、居眠り、途中入退室をしない等）を守っている。
- 授業への感想・要望（記述）

## 2 集計・分析の結果

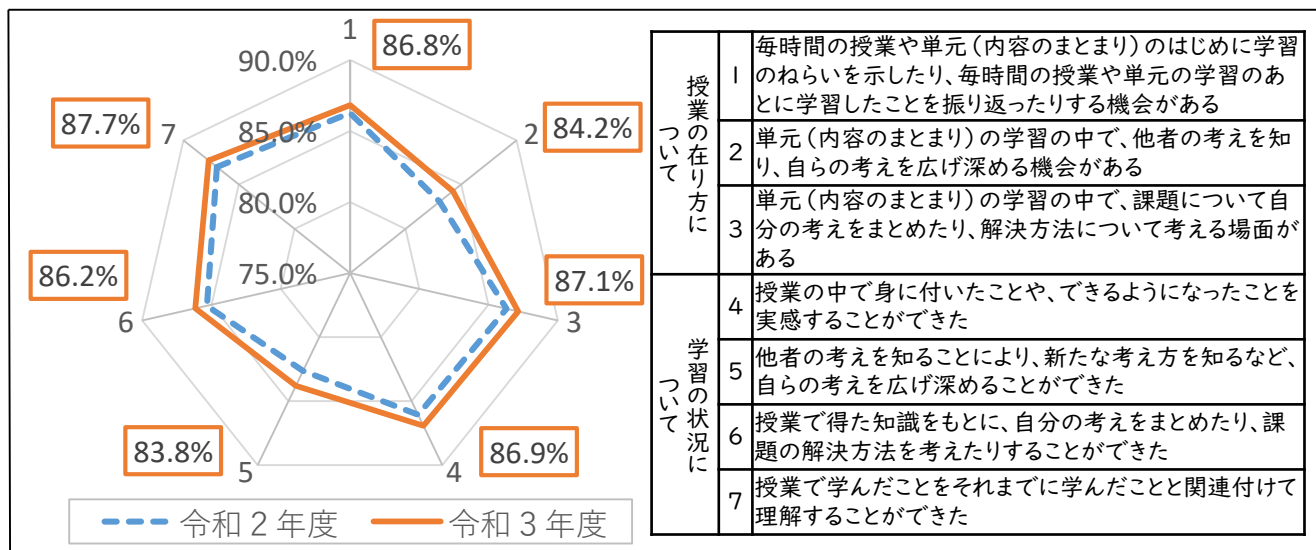
### (1) 共通教科について

○各教科及び全体について、肯定的な回答(評価「4 かなり当てはまる」又は「3 ほぼ当てはまる」)をした割合を、共通小項目ごとに示した(第4表)。

第4表 共通教科の集計結果 (単位は%、小数第2位を四捨五入)

共通小項目	国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報	平均
1	86.7%	87.4%	86.2%	86.1%	86.3%	88.1%	86.9%	87.2%	86.2%	84.5%	86.8%
2	86.8%	81.9%	84.6%	82.4%	81.7%	85.2%	84.2%	86.7%	83.8%	80.6%	84.2%
3	88.5%	84.7%	86.2%	87.5%	86.3%	88.0%	87.1%	87.9%	85.9%	85.5%	87.1%
4	85.8%	85.1%	85.1%	86.7%	85.3%	89.3%	89.8%	87.2%	87.5%	88.2%	86.9%
5	86.2%	82.5%	84.9%	81.6%	81.0%	85.2%	84.7%	85.0%	83.9%	80.5%	83.8%
6	86.5%	84.9%	85.9%	85.9%	85.1%	87.6%	86.6%	86.6%	85.6%	85.1%	86.2%
7	87.3%	88.4%	88.4%	86.8%	87.0%	88.5%	87.8%	88.4%	87.4%	86.4%	87.7%

○共通教科全体について、肯定的な回答をした割合を、共通小項目ごとにレーダーチャートで示した(第1図)。



第1図 共通教科全体において、肯定的な回答をした割合

○共通教科全体において、すべての共通小項目で、肯定的な回答をした割合が昨年度を上回った。すべての項目が前年度を上回るのは2年連続である。感染症対策の中でのオンライン授業、対面授業でも分散や短縮を強いられる中、各学校・各教員が授業改善に向けて、工夫や努力を重ねた成果の現れであるといえる。

○昨年に引き続き、共通教科全体における共通小項目「2 単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」と「5 他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」が、比較的低くなっていることが分かる。しかしながら、2年連続で向上しており、他の項目が0.5~0.9ポイントの上昇である一方、「項目2」「項目5」は共に1.1ポイント上昇している。感染症対策によって加速したICTの利活用等で、「対話的な学び」も促進されたのではないかと考える。今後は、こうした授業改善が、学力の定着等に結び付いたかの検証や、コロナ後を見据えた学習活動の充実に向けて、より積極的に活動内容を工夫しながら「主体的・対話的で深い学び」を推進していくことが必要である。

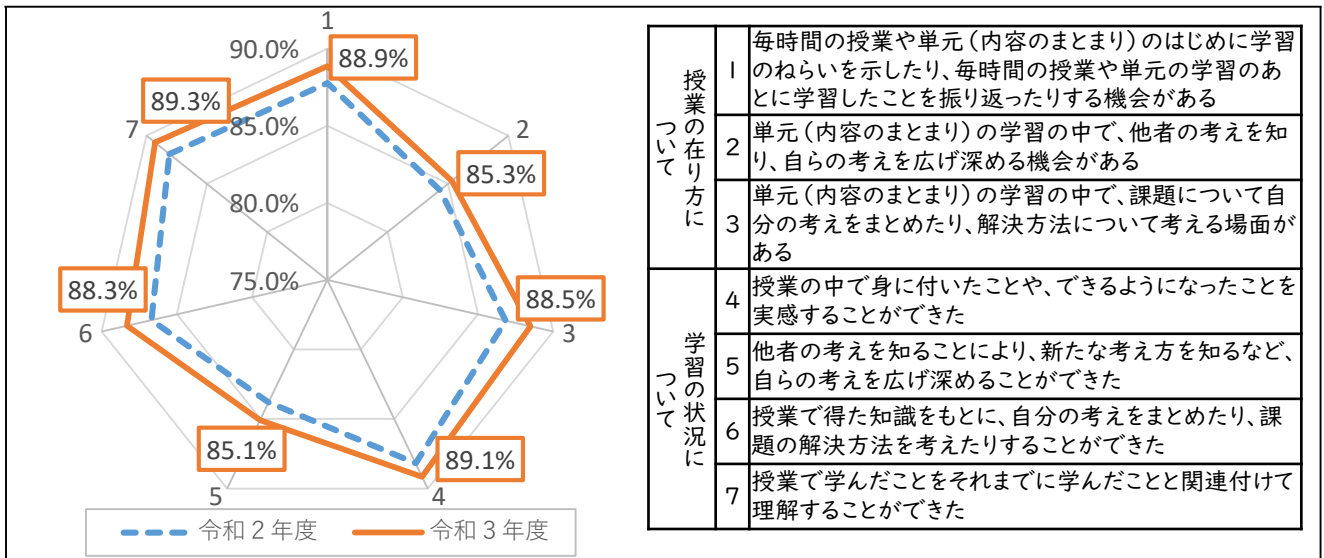
## (2) 専門教科について

○各教科及び全体について、肯定的な回答(評価「4 かなり当てはまる」又は「3 ほぼ当てはまる」)をした割合を、共通小項目ごとに示した(第5表)。

**第5表 専門教科の集計結果** (単位は%、小数第2位を四捨五入)

共通小項目	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	理数	体育	音楽	美術	英語	平均
1	88.2%	87.9%	86.0%	91.7%	91.4%	98.0%	89.5%	93.2%	79.2%	95.6%	95.4%	93.8%	86.0%	88.9%
2	82.7%	85.2%	81.1%	88.9%	88.4%	97.7%	78.5%	91.7%	80.8%	94.2%	91.6%	90.6%	87.3%	85.3%
3	86.7%	87.9%	86.1%	90.2%	90.3%	99.0%	90.5%	92.7%	87.5%	94.8%	94.5%	93.5%	88.3%	88.5%
4	88.6%	87.6%	87.4%	91.3%	92.0%	99.2%	93.4%	91.8%	91.7%	95.0%	97.2%	94.4%	89.6%	89.1%
5	82.2%	84.9%	80.9%	88.2%	88.7%	98.2%	79.0%	90.9%	87.5%	93.6%	92.4%	92.5%	84.4%	85.1%
6	86.7%	87.8%	85.2%	90.2%	90.9%	98.8%	89.7%	92.3%	83.3%	95.3%	94.8%	93.2%	87.6%	88.3%
7	88.7%	88.2%	86.6%	89.8%	92.2%	99.2%	91.6%	92.7%	87.5%	95.5%	97.7%	94.6%	90.9%	89.3%

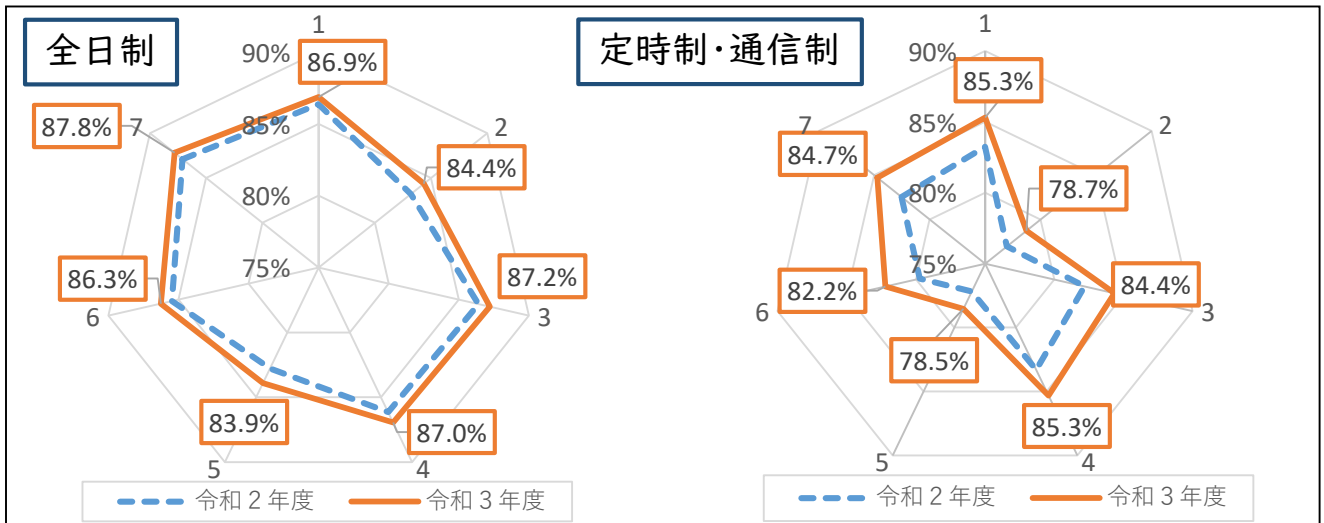
○全問教科全体について、肯定的な回答をした割合を、共通小項目ごとにレーダーチャートで示した(第2図)。



**第2図 専門教科全体において、肯定的な回答をした割合**

## (3) 全日課程及び定時制・通信制課程について

○全日課程と定時制・通信制課程の共通教科全体において、肯定的な回答をした割合を、共通小項目ごとにレーダーチャートで示した(第3図)。



**第3図 共通教科全体(課程別)において、肯定的な回答をした割合**

## 3 「生徒による授業評価」に関わる取組、授業改善に向けた取組など

## (1) 「生徒による授業評価」の活用

「生徒による授業評価」をどのようにいかしているかについて、各学校から次のような回答があった。

- 教科会にて集計結果を分析し、改善策を考察した。評価が低い項目に関しては教員間でのアドバイス、授業の振り返りの時間を増やすなど授業・学習活動を見直し、今後の授業改善に役立てた。
- 授業力向上研修会の内容を、生徒による授業評価の結果をもとに決めた。今年度は、項目11「該当科目の家庭学習を意欲的に取り組んでいる」の結果が低かったため、研修会では「生徒の自宅学習につながる授業づくり」をテーマとした。
- Googleフォームを利用して、授業担当者が自分の担当する科目でどのように評価されているかをリアルタイムに把握した。

## (2) 「生徒による授業評価」に関する課題やその解決方法

「生徒による授業評価」に関する課題やその解決方法について、各学校から次のような回答があった。

- Googleフォームで回答させた結果、ペーパーレス化でき、集計もしやすくなったが、紙での実施に比べて回答数は減少した。全員が必ず回答するよう促す工夫が必要である。
- LHRを活用し、「生徒による授業評価」の時間を確保して実施したため、ほぼ全ての生徒が回答した。また、MicrosoftFormsを活用したため、事務負担を最小限に抑え、教員単位の集計表作成を可能にできた。
- 生徒による授業評価の結果を教員の授業改善への意識へとつなげていくことが課題である。授業評価が高い教員の授業や学力向上進学重点校を中心に他校の授業を参観するなどの取組を実施していきたい。
- アンケートの目的や趣旨を理解せずに回答する生徒は少なからず存在するため、正確な実態を把握することができない恐れがある。解決策としては、生徒にアンケートの目的と意義を丁寧に説明することが考えられる。

## (3) 「生徒による授業評価」以外の授業改善に関する取組

「生徒による授業評価」以外の授業改善に関する取組について、各学校から次のような回答があった。

- 授業力向上研修会を実施した。教職員同士でオンライン授業を生徒と同じ立場で実際に受けて、オンライン授業でも対面授業のような理解力をどのようにしたら高められるのか、講師も招いて検討し、授業力向上を図った。
- 新たな学習評価に関する教員全体対象の研修会を開催し、ルーブリックによるパフォーマンス評価の考え方を共有した。
- 様々なニーズのある生徒たちが安心して授業に参加できるよう、「フロントゼロ」の取組や生徒への指示の出し方を具体的にする等、授業改善プロジェクトチームを中心に授業のユニバーサルデザイン化を目指して情報共有をしている。
- 校内だけではなく、小学校・中学校・高等学校・大学の先生方、及び指導主事を招いて、「テーマ」を決め、公開研究授業を実施している。授業担当が新しい取り組みを行っているのを見て、見学した教員がそれを授業に取り入れたりするなど、授業改善につながっている。

## 4 「生徒による授業評価」のよりよい活用のために

- 2年連続で肯定的回答が前年度を上回ったことから、各校の取組に、より改善がなされたことがうかがえる。令和4年度より新学習指導要領に基づく新課程が始まるが、教科の枠をこえてお互いの授業を見合いながら組織的に授業改善を行う際に、「生徒による授業評価」を活用していただければ幸いである。